

令和5年10月1日

エンジニアリング協会 関係者の皆様へ

一般財団法人 エンジニアリング協会
専務理事

前野陽一

今年の夏は、猛暑の日が続きましたが、9月に入っても暑い日が続きましたが、「暑さ寒さも彼岸まで」の俚言のとおり、ようやく秋らしくなってきたような気がします。皆様、お元気でお過ごしでしょうか。

9月は、様々なことが起こりましたが、私が気になったのは、中国の動向です。

ご案内のとおり、中国は日本にとって最大の貿易相手国であり、多くの日本企業が、対中投資を行っています。私が最近気になっている点は、以下の点です。

(以下の話は、当然のことながら私の個人的な意見であり、当協会の公式の意見ではありません。)

① 東京電力福島第一原子力発電からの ALPS 処理水の海洋放出に対する反応

8月24日(偶然私の誕生日です)から開始されたALPS処理水の海洋放出については、国際原子力機関(IAEA)から、国際安全基準に合致していること等を結論付ける「包括報告書」が7月4日に公表されているにもかかわらず、中国政府は、未だに事実関係及び科学的根拠に基づかない発信を続けるとともに、日本からの水産物の輸入を全面禁止しました。

中国政府に同調する国がごく少数であるため、「日本批判」のトーンはやや弱まってきていますが、基本的なスタンスは変えていません。

こうした対応は、「一帯一路政策」への不信とともに、日本を含む諸外国の中国に対するイメージを悪化させるのみならず、中国国内で「海産物一般に対する消費減少」を生じさせるなど、負の効果が表れています。「落としどころ」を考えているのでしょうか。

② 「不動産バブルの崩壊」に象徴される中国経済の不振

「碧桂園」や「中国恒大集団」などの中国大手不動産デベロッパーが、「債務の支払いピンチ状態」になっている、という話は、日常的過ぎて、もはや驚きではなくなりました。政府系といわれる大手不動産デベロッパーも、破産の危機に瀕しているという話も聞きますし、地方政府の第三セクター(地方融資平台)の債務は、1100兆円を超えるのではないかと、その報道もあります。その金額の大きさもさることながら、「中国の裁判所は、債務超過に陥った企業の破産手続きを勧めない」「不良債権処理の道筋が不透明なばかりか、不良債権の金額がわからない」「中国の人口をはるかに超える住宅が既に建設され、又は建設中である」といったことが言われています。また、不動産バブルの崩

壊は、不動産セクター（GDP の約 1/4）に留まらず、関連産業や金融セクターにも波及するのではないかと、言われています。

中国経済の不振が見られるのは、不動産セクターだけではありません。中国の輸出入とも不振が続いていますし、中国への直接投資も大幅に減少しています（半導体などハイテク製品をめぐる米中対立や、改正反スパイ法制定などの影響もあるのではないかと、思います。）

デフレに向かっていると思える経済状況に対し、中国政府が有効な手段を打っているようには見えません。若干の金融緩和を行っているようですが、他方で「人民元の為替水準維持」を目的に、「ドル売り、人民元買い」（人民元の流通量を減らすのですから、当然金融引き締め効果をもたらします）を行っている模様であり、矛盾した政策がとられています。

また、そもそも「中国の公式統計は、どこまで実態を表しているのか」という問題もあります。若年層の失業率を非公表にするなど、「都合の悪い数字は、隠す又は胡麻化しているのではないかと」という話は、中国内外で公然となされています。

習近平主席は、「資本主義的な需要喚起策」はお好きでない、と聞いているのですが、そうすると、どのように中国経済を立て直すおつもりなのでしょうか。

③ 習近平を支える人材の枯渇

7月に秦剛外相が更迭され、最近、李尚福国防相も消息不明となっています。習近平主席が、陸・海・空軍と並ぶものとして創設した「ロケット軍」の司令官及び政治委員も解任されています。日本の新聞に掲載されている代表例を書いただけなのですが、その他にも、習近平主席が自ら任命した政府及び軍の枢要な幹部を、「汚職」などの名目で更迭している、との報道があります。

米国のラーム・エマニュエル駐日大使は9月8日、X（旧ツイッター）に「習主席の閣僚体制は、いまやアガサ・クリスティの小説『そして誰もいなくなった』のようだ」と皮肉を込めて投稿しています。

そもそも習体制第3期のスタート時に、「習近平主席の周りには、『イエスマン』しかいない」と言われていたのですが、こうしたことが続けば、ますます「習近平主席を支える人材」が不足するのではないのでしょうか。

以上のほか、ASEAN 首脳会議及び G20 の直前に、「中国の一方向的な領有権を主張する地図」を公表し、諸外国から反発を受けるなど、中国の「戦狼外交」は、もはや限界にきているのではないのでしょうか。

以下、9月の主な活動についてご報告申し上げます。

[主要な活動内容]

1 講演会等の開催

9月は、ビジネス講演会を7件及びエンジニアリングの最新DXセミナー1件を実施しました。

10月は、ビジネス講演会を4件行うほか、事業説明会及びエンジニアリングの最新DXセミナーをそれぞれ1件行う予定です。全てZoom Web配信で実施いたします。

また、「エンジニアリングシンポジウム2023」を10月20日(金)に日本教育会館 一ツ橋ホールにて開催いたします。今回も、前回と同様、会場とオンライン(Zoom ウェビナー)のハイブリッド開催となっております。

多くの方のご参加をお待ちいたしております。

2 エンジニアリング功労者賞(個人表彰)受賞者に対するインタビュー

先月の引き続き、9月7日(木)に、2023年度のエンジニアリング功労者賞(個人表彰)を受賞された秋田美篤様(日揮グローバル㈱)へのインタビューを実施しました。

個人表彰受賞者お三方(渡部孝様(元 JFEエンジニアリング㈱)、中村 守孝様(千代田ユーテック㈱(元 千代田化工建設㈱))及び秋田美篤様(日揮グローバル㈱))のインタビュー記事については、11月の専務理事レターに添付する予定です。

特に、若手社員の方や、これからエンジニアリング企業で活躍しようと考えている学生の皆様に、お読みいただければ幸いです。

3 企画会議 開催(エンジニアリング白書の公表など)

9月8日(火)に、WEBによる企画会議を開催いたしました。

企画会議では、2023年度『エンジニアリング産業の実態と動向』(エンジニアリング白書)の公表など、最近の協会の活動状況についてご説明しました。

会員の皆様には、当協会の会員のページから、エンジニアリング白書の概要を見ることができます。是非ご覧いただければ幸いです。

(<https://www.ena.or.jp/information/pub/white-paper/page?id=64180>)

4 茨城県 大井川和彦知事へのインタビュー

9月19日(火)に、水戸市において、大井川和彦知事へのインタビューを実施しました。大井川知事は、経済産業省での勤務経験があり、私も一緒に仕事をすることがあり、私自身茨城県民であることから、是非インタビューをしたいと思っておりましたが、なかなか機会がありませんでした。

たまたま、7月に米国大使館で行われた独立記念日のパーティでお会いをして、直接お願いをして実現の運びとなりました。茨城県は、研究学園都市であ

るつくば市が所在するだけでなく、北関東自動車道、圏央道、つくばエクスプレスなど、最近交通体系が充実しており、本年 5 月に経済産業省が発表した 2022 年(1~12 月)の工場立地動向調査によれば、47 都道府県中、工場立地面積と県外企業立地件数がともに全国 1 位となっています。

「茨城県の魅力」について、大井川知事に大いに話していただきました。できるだけ早く、インタビュー記事をまとめたいと思います。

5 会員企業トップインタビューの実施

9 月 28 日(水)に、ターナー&タウンゼント株式会社のカントリーディレクターであるニック・ヒールド様にインタビューを行いました。

ターナー&タウンゼント社は、1946 年創業の老舗企業であり、不動産、インフラ、天然資源など多様なプログラムを支援しておられます。

今回は、日本法人の責任者であるニック・ヒールド様から、同社の日本における活動をお伺いしました。

6 在日米国大使館 商務部主催のレセプションに参加

9 月 28 日(水)に、在日米国大使館 商務部主催のレセプションに参加しました。

昨年も、同じレセプションにお招きいただきました。大変ありがたいことです。

5 その他

世間では、ジャニーズ事務所の創業者による性加害問題が、大きく取り上げられています。その詳細については、当事者でなければわからない問題も多く、私ごとやかく言う話ではないのですが、ジャニーズ事務所の対応のみならず、マスメディアの在り方も問われており、ジャニーズ事務所のタレントを今後自社の CM に使わない、とする企業も数も増えています。

そのような中で、「本問題は、数十年前から噂があった。噂があった段階で、企業はジャニーズ事務所のタレントを CM に使うべきではなかった。私自身、使わなかった」としているのが、世界的食品メーカーの日本法人である「ネスレ日本」の元代表取締役社長兼 CEO の高岡浩二氏です。同氏の主張は、YouTube で拝見したのですが、日本企業のコンプライアンスに対しても、なかなか厳しいご意見をお持ちでした。真偽不明の話や付度(?)で終始しているマスメディアの報道より、感心させられました。

10月の講演会の実施について

令和5年10月1日
エンジニアリング協会
専務理事 前野陽一

10月は、ビジネス講演会を4件行うほか、事業説明会及びエンジニアリングの最新DXセミナーをそれぞれ1件行う予定です。全てZoom Web配信で実施いたします。是非、多くの方のご参加をお待ちいたしております。

また、既にご案内のとおり、「エンジニアリングシンポジウム2023」を10月20日（金）に日本教育会館 一ツ橋ホールにて開催いたします。今回も、前回と同様、会場とオンライン（Zoom ウェビナー）のハイブリッド開催となっております。

なお、正式なご案内は、別途お送りいたします。

1 経済産業省 事業説明会

「2023年版 不公正貿易報告書について」

「他国による貿易救済措置への対応について」

(10月3日（火） 経済産業省 通商政策局 通商機構部

国際紛争対策室 室長補佐 平澤史子 様)

経済産業省では、1992年以来、WTO協定をはじめとする国際的に合意されたルールを基準として、主要国の貿易政策・措置の問題点を指摘し、撤廃や改善を促す「不公正貿易報告書」を公表しています。

今回の説明会では、この報告書の概要をご説明いただくとともに、外国政府が、貿易救済措置（AD・SG）の調査を開始した際、日本企業として、回答にどこまでコストをかけるべきか、後のWTOでの訴訟まで見据えて、今やっておくべきことは何かなど、対応方法に関し、ご説明いただきます。

海外営業部門、法務部門の皆様にも、お聞きいただければ幸いです。

2 中国の改正反スパイ法について

(10月6日(金) 株式会社オオコシセキュリティコンサルタンツ

シニアコンサルタント 塚田 雄一 様

シニアコンサルタント 戸田 和雄 様)

中国では、改正反スパイ法が本年7月1日から施行されましたが、同法は不明瞭な点が多く、中国で駐在事務所をお持ちの企業や、中国に社員を出張させる企業の多くは、懸念材料を抱えたまま中国企業とのビジネスを進めています。他方、中国政府は公民(国内外の中国籍者)からの反スパイ法取締りに係る情報提供を促しています。

本講演では、中国の国家安全局からマークされない心構えと行動など、分かり易くご説明いただきます。

海外営業部門や人事部門の皆様には、是非ご参加いただきたいと思います。

3 企業と教育現場をつなぐ PLIJ の未来人材育成の取組み

(10月12日(木) (一社) 学びのイノベーション・プラットフォーム(PLIJ)

理事長 浦嶋 将年 様)

文部科学省では、STEM (Science, Technology, Engineering, Mathematics) に加え、芸術、文化、生活、経済、法律、政治、倫理等を含めた広い範囲で A (Arts) と定義し、各教科等での学習を実社会での問題発見・解決に生かしていくための教科等横断的な学習を推進しています。

(一社) 学びのイノベーション・プラットフォーム(PLIJ)は、この「STEAM 教育」を、企業の皆様にも関心を持っていただくための活動をしております。

今回の講演では、欧米の事例、さらに2021年以降、国内教育現場での実施事例をお示します。

部門を問わず、多くの方にご参加賜れば幸いです。

4 全固体電池研究の道程と最新状況

(10月13日(金) 国立大学法人 東京工業大学

全固体電池研究センター長

特命教授 菅野 了次 様)

「全固体電池」は従来の電池と比較し安全性が高く、小型大容量の電池を実現できるなどの特徴があるため、カーボンニュートラルへの貢献が期待され、次世代の蓄電デバイスとして注目を集めています。全く新しい方式のため長年培われてきた経験則では解決できない困難な課題も残されています。

本講演では「全固体電池」の特徴並びに長期に渡る研究の道程を振り返りつつ、サイエンス構築のための最新の研究課題等を紹介いたします。

エネルギー部門の皆様にご参加賜れば幸いです。

5 持続可能な社会へ向かうライフサイクルエンジニアリング

～Co-JUNKANで目指すビヨンド・”ゼロカーボン”～

(10月27日(金) 東京大学 未来ビジョン研究センター 准教授

菊池 康紀 様)

気候変動問題への対応は、喫緊の課題ですが、そのほかにも、生態系の保全や、食料の安定生産、地域交通等のインフラ維持、防災を意識した強靱なエネルギーグリッドなど、「持続可能な社会」の構築のためには、多くの課題が存在しています。

本講演では、こうした諸問題に対する国内外のアカデミアの研究や、政府の政策についてご紹介いただき、ライフサイクルエンジニアリングの在るべき形について、お話しさせていただきます。

エネルギー・環境部門の皆様を中心に、お聞きいただければと思います。

6 第3期 エンジニアリングの最新DXセミナー（第4回）

～ 欧州&グローバル産業データ連携基盤の動向 ～

日本企業はどう対応するのか

（10月31日（火） ロボット革命・産業IoTイニシアティブ協議会（RRI）

中島 一雄 様）

本講演では欧州起点で起きている Catena-X（自動車のバリューチェーン全体でデータを共有するためにドイツで設立されたアライアンス）や Manufacturing-X（企業・業界間の垣根を超え、各企業が事業を通じて蓄積したデータを共有して新たな価値の創出を目指そうとする取り組み）を読み解きつつ、グローバルで動き始めた取り組みの紹介を行い、日本企業の対応について考えていきます。

[第27回]



株式会社 PlantStream

代表取締役CEO

なる え せい た ろう
愛徳 誓太郎 氏

貴社のプラント設計を抜本的に改革しませんか？ ～世界市場を目指すカーブアウト企業～

株式会社 PlantStream は、2020年に、大規模プラントの分野で数多くの実績を持つ世界的EPCコントラクターである千代田化工建設株式会社と、業界トップレベルのCADエンジニアが多数集うスタートアップ企業である株式会社Arentが、50対50の共同出資で設立した会社です。

株式会社 PlantStream は、千代田化工建設株式会社の持つ「プラントエンジニアリングの知見及び業界内ネットワーク」と、株式会社 Arent の持つ「ベンチャーの技術とスピード感」を掛け合わせて事業展開をされており、

主力製品である次世代型3D CAD「PlantStream®」の売り上げは、2021年4月の販売開始以来、急速に伸びており、導入先企業も、日本企業のみならず海外企業にも及んでいます。

今回のインタビューでは、代表取締役 CEO の愛徳 誓太郎様が、千代田化工建設株式会社におけるプロットプラン・配管設計エンジニアとして働かれる中で、何故プラント設計に係る革新的なソフトウェアを開発するに至ったのか、株式会社 PlantStream の事業展開の方向性などについて、詳しく語っていただきました。



自身の経験から 必要性を感じた 「PlantStream®」

— 愛徳様は、2004年に千代田化工建設株式会社に入社して以来、プラントの設計及びプロジェクト遂行業務に携わってこられてきた中で、プラントの自動設計の必要性を痛感して、「PlantStream®」の開発に着手した、と承知しております。まず、その経緯をご説明いただけますか。

愛徳 おっしゃるとおり、私は、千代田化工建設株式会社において、プロットプラン・配管設計エンジニアとして働いておりましたが、家庭の事情で、多忙を極めるプロジェクト遂行の最前線から外れざるを得なくなりました。その時感じたことは、「設計業務に携われる関係者も、余裕のある生活が送れるようにしたい」ということです。

プラントのエンジニアリング業務は、

プロセス設計、システム設計、機械設計、最後に配管設計という流れとなります。この中で、配管設計は、2次元の設計図書を見て、頭の中で3次元をイメージして3Dモデルをつくる必要があります。最も知識経験のあるエンジニアが行っても、手間と時間がかかります。また、上流部分のプロセス設計やシステム設計における変更が頻繁に起こるため、そのたびに3Dモデルを作り直さなければなりません。加えて、配管設計は、エンジニアリングの最終段階ですので、プラントに機械的に問題がないかなども、チェックする必要があります。したがって、配管設計部門は、どうしても残業が多くなりがちな部門になってしまうのです。今後ますます深刻化する熟練エンジニア不足や働き方改革の観点からも、プラントの自動設計が必要不可欠だと考え、まずは、千代田化工建設株式会社における業務効率化のために、自動設計ソフトウェアの開発を開始しました。

開発にとって 最高のビジネスパートナー 株式会社Arent

—そこで、ソフトウェアを共同開発するパートナーを探したのですね。

愛徳 はい。2017年に開発を始めた当時は「AIブーム」で、始めは10社くらいのAIベンチャー企業との間で、プラント自動設計のプロトタイプ、PoC（ブルーフ・オブ・コンセプト）をつくりました。しかし、残念ながら、思ったようなものは作れませんでした。そこで、「3Dならゲームアプリをつくっているメーカーにもノウハウがあるのではないか」と思いつき、何社かお声をかけをする中で、株式会社Arentがお持ちの技術が、私たちの行いたいことにマッチすることがわかり、2018年10月から共同開発を行うこととなったのです。株式会社Arentには、自動車向けCADの開発をしていた方もおられ、ゲーム以外の新しいビジネスモデルをつくりたいというお気持ちが

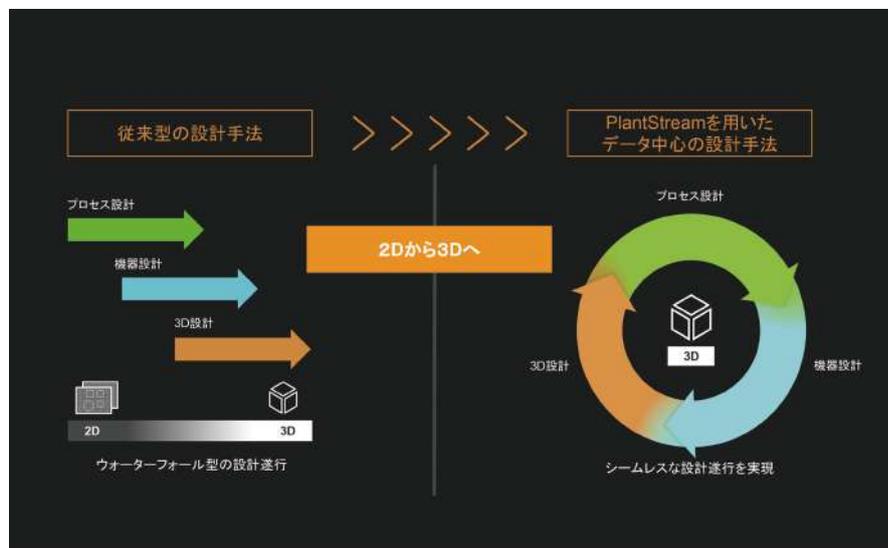


あったのも、協力関係を構築するのに追い風になったのだと思います。共同開発は順調に進み、2020年にはジョイントベンチャーである株式会社PlantStreamを設立し、2021年4月からは、「PlantStream®」として販売を開始しました。当初このソフトウェアは、社内での活用だけを目的としていたのですが、「1,000本の配管であれば1分程度で自動ルーティングができる」というスピードや品質の高さが、今までのソフトウェアにはないものであることから、業界全体に広める方がよい、という結論となったのです。

プラント設計の常識を塗り替える ～圧倒的な精度とスピードの 自動配管～

—「PlantStream®」の強み、特長について一部お話がありました。ここで、まとめて「『PlantStream®』を使用することのメリット」について、お話を頂きたいと思います。

愛徳 私は、「PlantStream®」を使っていたら、3つあると思っています。先ほども申し上げましたが、第1のメリットは、配管設計やケーブル設計における圧倒的な精度とスピードです。ポンプから機器、更には機器から機器と、血管のように配管やケーブルをつないでいくわけですが、その際、配管温度や圧力のコンディションなども考慮しながら行う必要があるため、手作業で行うと、配管一本あたり平均で2時間ぐらい時間がかかります。他方、当社の「PlantStream®」を利用していたら、自動でルーティングを行うので、配管やケーブルの初期設計業務に必要な時間を約80%削減できます。合理化できる作業の中には、配管を引く作業だけでなく、配管に必要な部材の管理（MTO、マテリアルテイクオフ）も含まれます。更に、「PlantStream®」は、世界的EPCコントラクターである千代田化工建設株式会社の熟練エンジ



PSによるデータ中心のシームレスな設計手法



「good digital award」表彰式で
河野太郎デジタル大臣と

ニアのノウハウをアルゴリズム化しているので、高精度であるとともに、詳細設計にまで展開できる実用的な空間設計が可能です。これは、他社製品には真似のできない特長だと思っています。

プラント設計の常識を塗り替える ～直感的3Dモデル設計～

愛徳 「PlantStream®」を使っていただく第2のメリットは、「直感的な操作で誰でも簡単に3Dモデルを作成できる」という点です。これまでは熟練のエンジニアが過去の経験をもとに、機能要件や運転・保守・施工のしやすさ等を考慮して、膨大な作業工数を掛けて設計を行っていました。しかし、膨大な設計ノウハウがアルゴリズム化されている「PlantStream®」を使っていただければ、経験の浅いエンジニアでも、簡単な操作でごく短時間で3Dモデリングを行うことができます。エンジニアリング業界でも、少子高齢化に伴う人材不足は深刻であり、「誰でも簡単に操作できる」ことの重要性は、ますます増していくと思います。こうした特長については、日本政府（デジタル庁）が目指す「誰一人取り残されない、人に優しいデジタル化」に合致しているとの評価を頂き、同庁が主催する2022年度「good digital award」において、当社は部門最優秀賞を頂戴することができました。「PlantStream®」が特に威力を発揮するのは、設計の初期段階です。基本設計フェーズの3D設計の精度を向上させ

ることによって、複数のケーススタディを、容易かつ短時間で実施することが可能となるため、プラントオーナーに対し、複数のレイアウト提案が可能になるなど、営業ツールとしても、有用だと考えています。

プラント設計の常識を塗り替える ～様々なデータエクスポート～

愛徳 「PlantStream®」を使っていただく第3のメリットは、主要なプラント設計ツールにスムーズなデータエクスポートが可能なおことです。「PlantStream®」は、プロットプラン検討や積算・基本設計といった設計の初期段階において、高速で精度の高い設計を可能にするソフトウェアですが、「PlantStream®」の3Dモデルは、詳細設計で一般的に使用されているAVEVAやHexagonなどのプラント設計ツールに直接書き出し可能で、シームレスなEPC遂行が実現できます。

—なるほど。素人の私にも、なんとなく分かってきました。設計の初期段階から、高速かつ精密な3Dモデルをつくることができ、コスト削減や営業力の強化に威力を発揮する、ということですね。

ビジネスは順調に拡大、 外国企業も関心を示す

—2021年4月から「PlantStream®」の販売を開始された、ということでしたが、売れ行きはどのようなものでしょうか。

愛徳 販売開始が、コロナ禍で新規プラント建設が停滞している時期と重なり心配していたのですが、お陰様で売れ行き好調です。2021年度の売り上げは8,000万円、2023年度は2億円となり、2023年度は3億円程度の売上げを見込んでおります。更に、2024年度は6億円程度まで拡大できるのではないかと、思っています。導入いただいている企業様の数も、15社（2023年9月現在）まで増えました。また、2021年度は、売上げの99%が日本国内でしたが、2022年度は海外比率を17%にまで引き上げることができました。更に、サブスクリプションビジネスが成長しているかどうかを把握する重要指標の一つである年次経常収益（ARR; Annual Recurring Revenue）は、正式リリースから2年で約2億円となりました。ご利用いただいているお客様からは、「3Dモデルで視覚的に確認できることにより、配管のルーティングに要していた時間を圧倒的に削減できる」「期間短縮や設計精度向上、更には事業採算性の向上効果がある」「配置計画の検討に役立つだけでなく、最適なレイアウト実現により、材料の大幅削減効果が期待され、プロジェクトの初期段階での活用にも有効である」といったありがたいお言葉を頂戴しています。

また、2022年9月には、イタリアのミラノで開催された世界最大級のエネルギーイベント「Gastech 2022」で「PlantStream®」の紹介をさせていただく機会を得ました。多くの企業から質問やお声がけを頂き、手応えを感じています。

愛徳 誓太郎 (なるえ せいたろう)

1980年埼玉県に生まれる。
信州大学工学系研究科卒業、2004年千代田化工建設株式会社配管設計部に配属。海外大型 LNG プロジェクトの設備配置、配管設計を担当。2018年から空間自動設計システム開発タスクリーダーを経て、2020年に株式会社 PlantStream 代表取締役 CEO に就任、現在に至る。



「PlantStream®」の普及に 今後とも尽力

— 今後の目標といったものはありますか。

愛徳 とにかく「PlantStream®」の利用を拡大し、開発コストをカバーし、更に利益を上げることが目標です。千代田化工建設株式会社のノウハウが母体となっているため、オイル&ガスや化学プラントでの利用がイメージされやすいですが、水処理、環境、ゴミ処理、パワープラント、発電プラントといった分野でも、このソフトウェアは威力を発揮すると考えています。また、コントラクターだけでなく、オーナーサイドにとっても有用なツールですし、広く海外で使っていただきたいと考えています。

また、私のアイデアを採用していただき、「PlantStream®」の開発に資金を出していただいた千代田化工建設株式会社、及び共同出資いただいた株式会社Arentには大変感謝しており、できる限り早期

に収益をあげて恩返しをしたいと思っています。そのためにも、まずは私が率先して動いて、営業活動に邁進しております。

— 愛徳様のご尽力により、株式会社PlantStreamの事業は順調に成長していると思います。愛徳様がロールモデルとなって、新たなカーブアウト企業を立ち上げる方も出てくるのでしょうか。

人生の指針は「青春の詩」

— 最後に、愛徳様ご自身のお話をお聞かせいただきたいと思います。人生の指針といったものをお持ちですか。

愛徳 詩人かつ実業家のサミュエル・ウルマンの「青春の詩」の一節が、私の人生の指針と言えるかもしれません。「人は信念とともに若く、疑惑とともに老ゆる。人は自信とともに若く、恐怖とともに老ゆる。希望ある限り若く、失望とともに老い朽ちる」という一節です。これは、父が額に入れて飾っていたものですが、私もこの言葉が好きになりました。

— プライベートでは、どのようなことをなさっていますか。

愛徳 昔からサッカーが好きで、千代田化工建設株式会社のサッカー部の部長を務めております。最近、子供がサッカーを始めたので、一緒にサッカーをするのが、楽しみです。

— 本日は、お忙しいところ、大変ありがとうございました。

インタビュー後記

「愛徳」という名前を正確に読める方は、ほとんどおられないと思います。「あいとく」さんではなく、「なるえ」さんです。ご本人にお聞きしたところ、石川県の能登半島にある寺院の僧侶に由来する名前だそうです。

愛徳様にインタビューを行っていく中で、まず感じたことは、「まだ若いのに、しっかりした方だなあ」ということです（私が歳を取ったということの裏返しかもしれませんが）。また、エンジニアリング業界という歴史ある産業で培ったノウハウを活かし、ソフトウェアという新たな事業領域から業界を変革していこうという、愛徳様の熱い思いを感じました。

日々の仕事をこなしていただくだけでも大変だと思いますが、その中で問題意識を持ち、社内の関係者を説得して、プロジェクトを立ち上げていく、ということは容易ではないと思います。これからも健康に気を付けて、頑張ってください。

聞き手：当協会専務理事
前野 陽一

企業データ

社 名：株式会社 PlantStream
 事業内容：空間自動設計システム
 「PlantStream®」の開発、販売
 創業：2020年7月1日
 所在地：東京都中央区八丁堀2-10-7
 日本瓦斯八丁堀ビル8F
 従業員数：18名(2023年9月現在)
 ホームページ：<https://plantstream3d.com/jp/>

